

鶴見岳・伽藍岳における活動報告

○活動の概要	
火山防災エキスパート等	岩田 孝仁（火山防災エキスパート、 静岡大学 防災総合センター特任教授）
支援対象	大分県
派遣日	令和3年3月1日（月）
場所	オンライン会議
取組名	令和2年度鶴見岳・伽藍岳の広域避難に係る 第3回ワーキンググループ
取組参加者	大分県、別府市、由布市、宇佐市、日出町、大分市、大分地方気象台
取組の目的	ワーキンググループに参加し、避難計画の策定経験や噴火時等の対応経験を基にした助言を行い、広域避難計画の検討を推進させることを目的とした。

【活動概要】

- 鶴見岳・伽藍岳では、平成31年1月に噴火警戒レベル1～3発表時の対応と突発的な噴火発生時の対応をまとめた「鶴見岳・伽藍岳火山避難計画（火口周辺地域）」を策定した。
- 未策定である噴火警戒レベル4,5発表時の対応には、広域避難が想定されているが、広域避難先となるのは協議会に参画していない大分市が想定され、火山災害警戒地域に指定されていないが広域避難受け入れ先として想定される市町村への説明や連携体制の構築などが課題となっている。また、大分県では、これまで広域避難を想定した避難計画等の策定経験がなく、ノウハウがないという課題もある。
- 岩田委員からは、第2回ワーキンググループに引き続き、第3回ワーキンググループに参加し、避難計画の策定経験や噴火時等の対応経験を基にした広域避難計画を検討するにあたっての留意点などについて助言をいただいた。（1時間程度）

§ 第3回ワーキンググループでの意見交換の内容

■鶴見岳・伽藍岳火山避難計画への記載内容（案）について

- ・大分県から広域避難に関する記載内容案について、説明を行った。

【意見交換】

- ・岩田委員：鶴見岳と伽藍岳は、必ず別々に活動するという前提なのか。また、活動活発化に伴い、それぞれ噴火警戒レベルを引き上げることができるのか。避難計画では、別々に火山活動が活発化すると想定しているが、同時に活動活発化若しくは噴火が発生することはないのか。特に、活動初期の段階ではどちらの火口

が開くかが判断できない事態を想定しておく必要がある。

- 大分地方気象台：火山としては、別々に扱っている。また、同時に噴火することは、想定しにくい。噴火の前兆を把握して、火山活動が活発化した際、避難計画を基に、状況に合わせて対応していくことが重要と考えている。
- 岩田委員：鶴見岳と伽藍岳が同時に噴火することも考えられるため、それぞれの影響等を重ね合わせたものが必要ではないか。また、活動初期の段階では、鶴見岳と伽藍岳のどちらで噴火を想定し対応するのか、判断ができないのではないか。
- 大分県：火山専門家や福岡管区気象台とも協議が必要だが、必要であれば検討する。重ね合わせた想定だと、人口等が大きく変わるため、修正が必要となる。
- 岩田委員：火山専門家の知見を含んで検討してほしい。また、避難行動要支援者は、今後もっと増えていく。ある程度前倒しで対応していくことも必要なのではないか。噴火警戒レベルの発表を待って対応することが難しいことも想定されるため、議論を広げて検討を進めてほしい。

<ワーキンググループの様子>

